

琉球使節と朝鮮通信使

西 羽 晃

前回に書きましたが、江戸時代には琉球と朝鮮からの使者が江戸の将軍に挨拶に来ました。両方とも同じような形態ですが、少し違っている部分もあります。『未刊松平定信史料』の中に寛延元（1748）年の琉球使節の事が記録されています。同じ年には朝鮮通信使も来ています。いずれも徳川家重の将軍就任祝いのためです。同年6月に朝鮮通信使、12月に琉球使節と半年ずれていますが、様子が違っている部分を書き出します。

朝鮮通信使は(朝) 琉球使節は(琉)と書きます。

1. 人数 (朝) 477人、正使 洪啓禧 (琉) 98人、正使 具志川王子
 ※ 人数が5倍近く違う
2. 付添 (朝) 対馬藩 (琉) 薩摩藩
 ※ 小藩である対馬藩には負担は大きい
3. 行程 (朝) 大坂まで船、大坂泊—枚方—淀泊—京都泊—大津—守山泊—八幡—彦根泊—今須—大垣泊—墨俣—名古屋泊—鳴海—岡崎泊—赤坂—吉田（今の豊橋）泊—荒井—浜松泊—
 江戸着5月21日 京都—浜松 7日間
 (琉) 大坂まで船、大坂泊—伏見—大津泊—草津—守山泊—武佐—愛知川泊—高宮—番場泊—今須—垂井泊—墨俣—萩原泊—清須—宮泊—池鯉鮒—岡崎泊—藤川—御油泊—吉田—白須賀泊—荒井休—浜松泊—江戸着12月11日 大津—浜松 10日間
 ※ 朝鮮通信使は多人数なのに、急ぎペースである
4. 木曾三川 (朝) 揖斐・長良・小熊川・木曾川は船橋
 (琉) 揖斐・長良・木曾川は舟渡し、小熊川のみ船橋
 ※ 朝鮮通信使は多人数なので、大きな川を渡るのに船橋（船を並べてその上に板を置いた）を架けたが、琉球使節は少ないので船で渡り、小さな川のみ船橋を架けた



「琉球人来朝一件」(『未刊松平定信史料』所収)より

5. 宿泊先 (朝) 各宿場の寺院、江戸では本願寺
彦根・宗安寺、名古屋・性高院、吉田・梧真寺
- (琉) 各宿場の本陣、江戸では薩摩藩下屋敷(芝)
- ※ やはり人数に多少によるのであろう

6. 江戸での接遇

●朝鮮通信使

- 5月21日 江戸着
6月1日 登城 将軍(家重)謁見 大広間にて。国書・献上品を贈呈。
西ノ丸にて大御所(吉宗)謁見。
6月3日 吹上にて 将軍・大御所・大納言(家治) 戯馬を見る
10日 上野東照宮にて 歩射・騎射 奉納
13日 江戸出発 (江戸滞在 22日)

●琉球使節

- 12月11日 江戸着
15日 登城 将軍(家重)謁見 大広間にて。国書・献上品を贈呈。
西ノ丸にて大御所(吉宗)謁見。
18日 奏楽・御暇 大広間にて将軍・大御所
21日 御三家訪問
27日 江戸出発 (江戸滞在 16日)
- ※ ほぼ同じようであるが、朝鮮通信使が長いのは交流が多かったからであろうか

6. 将軍への献上品

- 朝鮮国王から 人参、白綿、虎皮、豹皮、真墨、鞍馬など。
琉球国王から 御馬、寿帯香、芭蕉布、久米鳴布、泡盛酒など。
※ それぞれの特産品